

卒業生・修了生のみなさん

本日、東京家政学院大学は卒業生 401 名に学士号を、修了生 2 名に修士号を授与しました。

卒業生のみなさん、修了生のみなさん、ご卒業・修了おめでとうございます。本日、式典へのご列席が叶わなかったご家族、関係者のみなさんに、おめでとうございますとお伝えします。

この一年と少しの間、みなさんにとっても、また私たち大学教職員にとっても、新型コロナウイルス感染症拡大への対応に追われる毎日が続きました。大学・大学院生活の最後の年を緊急事態への対応で終わることに、残念な、あるいは無念な思いを抱かれています。しかし、この一年余に経験したことは、みなさんの今後の人生で起こり得る、仕事の上でも、あるいは家庭においても遭遇する「危機」のひとつに過ぎません。だからこそ、この間にみなさんが得た経験と知識とを、将来遭遇するであろう「危機」を解決に導く大きな「力」へと高めていただきたい、そう私たちは願っています。

みなさんのご卒業・修了に際し、ひとつだけお伝えしたいと思います。

“私たちはどこから来たのか？私たちは何者であるのか？私たちはどこへ行こうとしているのか？”を問え、ということです。

みなさんがいのちを授かる少し前の 1997 年、日本で公開されたアメリカ映画“*Contact*”は、この国で働く若い女性たちに強い共感を持って受け止められた映画として知られています。もし、みなさんが働く中で理不尽な思いを抱いたら、この映画を観ると「強い共感」の意味が分かると思います。

それとは別に、私がこの映画に関心を持ったのは、“私たちはどこから来たのか？私たちは何者であるのか？私たちはどこへ行こうとしているのか？”という原初的な問いが映画の根底にあるからでした。このフレーズ、16 歳までカトリック神学校にいた画家ポール・ゴーギャンが、19 世紀末にタヒチで描いた作品の題名ともなっています。

“私たちはどこから来たのか？私たちは何者であるのか？私たちはどこへ行こうとしているのか？”という問いは、宗教上の教義問答、つまり Catechism (カテキズム) として知られていますが、今の時代、人々がパンデミックを恐れる中で、この問いはいっそう普遍的に、宗教という枠を超えて人々の意識に上っています。

私がみなさんにお伝えしたいこと。パンデミックに向き合う中で、私たちはあらためて「生命」とは

何か、を問い始めたということです。

細胞生物学者のポール・ナースが、著書“*WHAT IS LIFE*”の中でこう言っています。感染症とのたたかいは私たちが決して完全には勝利しないたたかいであり、細菌とウイルスの大半は急速に増殖し、遺伝子も迅速に順応する、だから「新しい病気の株がいつ出現してもおかしくない」。では、ウイルスは何をするのか？ウイルスは細胞に感染し、血液の流れに入り、あらゆる場所の細胞に感染する、それはウイルスが自ら存続するための効率的な方法だとポール・ナースは指摘しています。

今、私たち高度な知性を持った人類は、電子顕微鏡でなければ視認できないウイルスにたたかいを挑まれています。しかも、そのたたかいは「完全には勝利しない」とさえ言われます。

では、私たちはどうすれば良いのか？私たちの目の前で展開される諸種の専門的知見が示すのは、科学・技術が知識を前進させ、合理的な判断を可能とする手段を私たちに与えつつある、ということに他なりません。ポール・ナースは、それを「生命を理解して世界を変える」と言い換えてもいます。今、私たちがそのさなかに置かれている新型コロナウイルスとのたたかいは、私たち自身や家族・友人たちの「生命（いのち）」を守るためにはもちろん、次の時代を担う世代、さらにはこの地球上の全ての生命（いのち）のための「たたかい」だということです。

みなさんがこの東京家政学院大学で学んだ個々の専門領域は、いずれも「生命（いのち）」との深いかかわりを持っています。細胞生物学といった領域とは対極的な、もっと日常的で、ありふれた日々の生活の中にある「生命（いのち）」とのかかわりに他なりません。

“私たちはどこから来たのか？私たちは何者であるのか？私たちはどこへ行こうとしているのか？”という問いへの入口にみなさんは立っています。本学で「家政学」という「生命（いのち）のつながり」を対象とする学問領域を学んだみなさんは、これから、社会の中でその問いと向き合うことになります。その問いに挑むこと、みなさんが「生命を理解して世界を変える」試みに励むことを、私たち教職員は応援します。みなさんはそれだけの「力」を持っています。もし考え疲れたら、いつでも東京家政学院大学のキャンパスに戻って来て下さい。みなさんを、私たち教職員は心から歓迎します。

卒業生、修了生のみなさん、ご家族、関係者のみなさん、厳しい時代でのご卒業・修了、あらためておめでとうございます。

2021年（令和3年）3月19日

東京家政学院大学学長

廣江 彰